

米国 雇用環境悪化で残高減少ペースは加速（09年6月消費者信用残高）

発表日：2009年8月10日（月）

～年内は減少基調が続こう～

第一生命経済研究所 経済調査部

近江澤 猛(おおみさわ たけし)

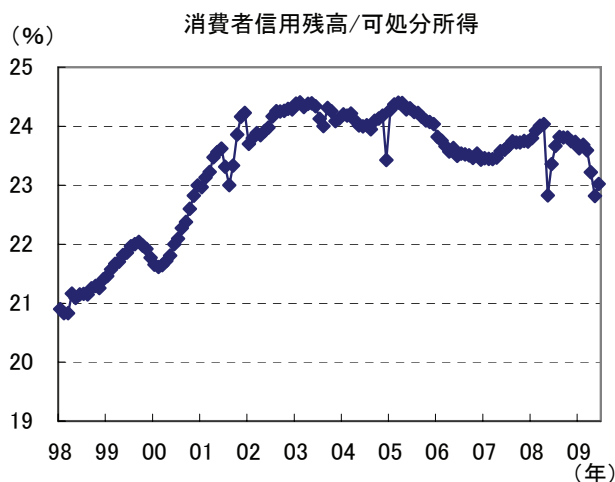
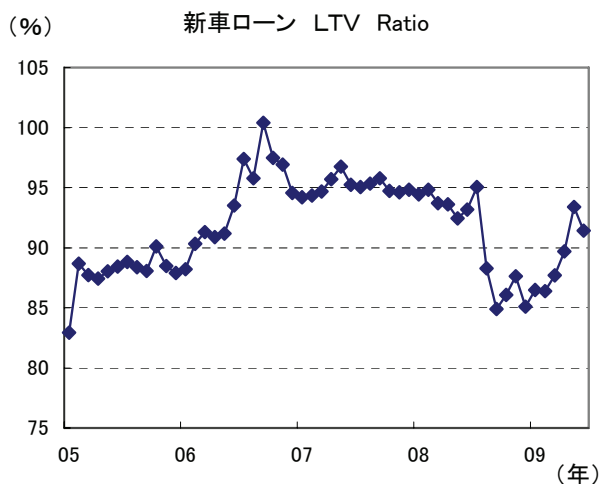
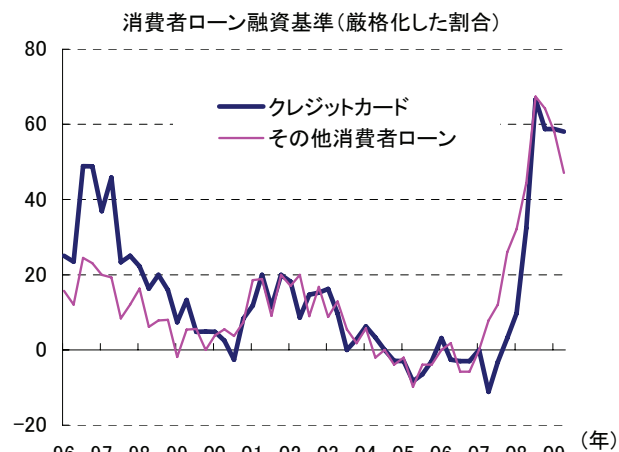
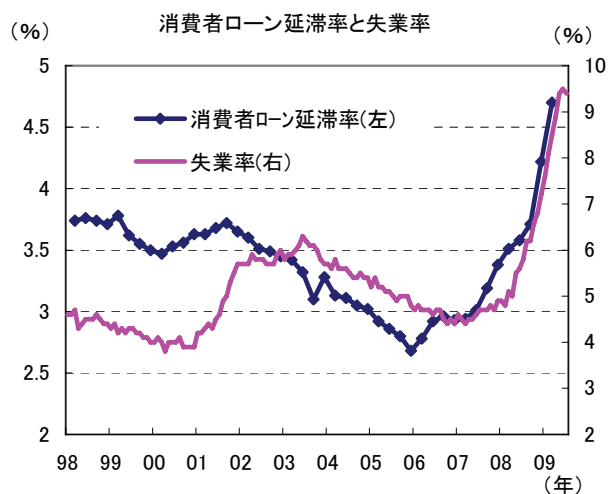
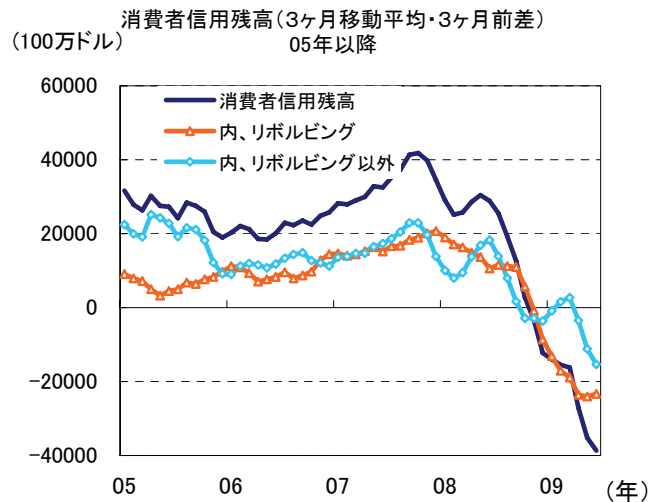
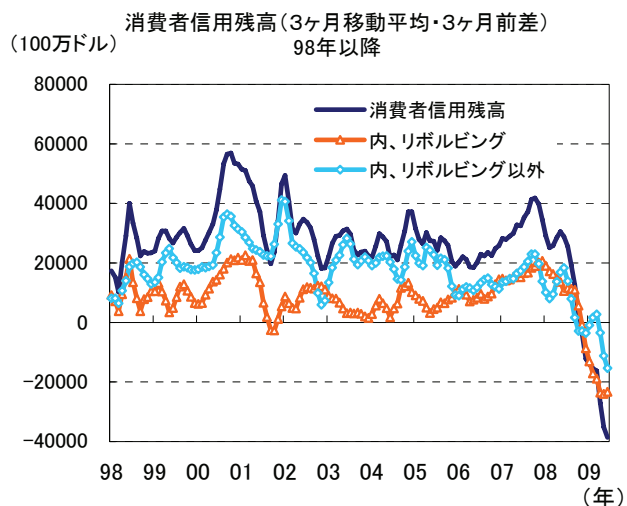
03-5221-4526

- 09年6月の消費者信用残高（季節調整済）は2兆5027億ドル、前月差▲103億ドル（前月比年率▲4.9%）と、前月同▲54億ドル（同▲2.6%）から減少幅は拡大し、前月比での減少は5ヵ月連続となった。本統計は月次での変動が大きいことから3ヵ月移動平均・3ヵ月前差でみると▲386億ドルと、前月同▲352億ドル、前々月同▲270億ドルから減少ペースは加速している。雇用環境の悪化から消費者ローン延滞率も上昇を続けており、消費者ローンの融資基準も依然として厳しい状況が続いていることから、消費者信用残高は減少基調が続いている。
- 内訳はリボルビング（クレジットカード等）が前月差▲53億ドル（前月比年率▲6.8%）と前月同▲49億ドル（同▲6.3%）から減少幅が拡大した。リボルビングの減少は10ヵ月連続で統計の遡れる1968年以降で最長である。リボルビング以外（自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等）も、同▲50億ドル（同▲3.8%）と前月同▲5億ドル（同▲0.4%）から減少幅は拡大している。
- 消費者信用残高の可処分所得（年率）に対する比率は23.02%と前月22.82%、前々月23.22%から振れを伴いながらも低下基調にあり、家計のバランスシート調整が続いている様子が確認される。
- 先行きの消費者信用残高だが、雇用環境の悪化がこの先も続くことが予想され、消費者ローンの延滞率も引き続き上昇が見込まれる状況で、金融機関の貸出態度も緩和し難い状況が続くと見られる。さらに、家計も資産価格の下落に伴いバランスシートの調整を続けるとみられることから、消費者信用は増加し難い状況が続こう。そのため、年内は消費者信用残高の減少基調が続くとみられるが、自動車買い替え促進の補助金制度の導入による自動車ローンの押上げにより、全体の減少ペースは緩やかになると予想される。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
08/07	2581.4	7.6	3.5	971.9	6.2	1609.5	1.4
08/08	2574.9	▲ 6.5	▲ 3.0	973.6	1.6	1601.4	▲ 8.1
08/09	2579.2	4.3	2.0	973.5	▲ 0.1	1605.7	4.4
08/10	2574.8	▲ 4.4	▲ 2.1	970.6	▲ 2.9	1604.2	▲ 1.6
08/11	2565.5	▲ 9.3	▲ 4.3	964.9	▲ 5.7	1600.5	▲ 3.6
08/12	2558.6	▲ 6.8	▲ 3.2	957.6	▲ 7.4	1601.1	0.5
09/01	2562.8	4.2	2.0	955.8	▲ 1.7	1607.0	5.9
09/02	2551.5	▲ 11.3	▲ 5.3	944.3	▲ 11.5	1607.2	0.2
09/03	2535.8	▲ 15.7	▲ 7.4	936.2	▲ 8.1	1599.6	▲ 7.6
09/04	2518.4	▲ 17.4	▲ 8.2	927.1	▲ 9.1	1591.3	▲ 8.3
09/05	2513.0	▲ 5.4	▲ 2.6	922.3	▲ 4.9	1590.8	▲ 0.5
09/06	2502.7	▲ 10.3	▲ 4.9	917.0	▲ 5.3	1585.7	▲ 5.0

（出所）FRB（連邦準備制度理事会）

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所)FRB(連邦準備制度理事会)、米労働省